

# 第32回

# うつのみやこども賞だより

平成27年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『少女探偵 月原美音』

横山佳／著（BL出版）

『コケシちゃん』

佐藤まどか／作（フレーベル館）



～読んだ本の感想より～

● お父さんを探すために一生けん命な美音に感動しました。また、半日もかからずに暗号をといてしまったところは、すごくかっこよくて自分もあんな風にも一度でも良いから誰もとけない謎をかっこよくといてみたいと思いました。次のページにうつるのが楽しい1さつでした。

●京川七海は2人のことを小学生だから何もできないと思っていたけれど、活やくするすがたを見て、できる人ということが分かってくれたところが読んでいてうれしかったです。

●美音と真菜のやりとりがおもしろい。

●かいとうがほかの人をたすけるということはなかなかないので、すごくおもしろく、よみはじめたらとめられないくらい早いスピードでよみおわりました。

●もっといろいろな事件をかいけつしてほしいです。



●初めての日本でいろいろな体験をしていく中で、四年一組の仲間とせいちょうしていくすがたがよかった。

●いじめはよくないとあらためて思った。外国人の子がもしきてても、やさしく接したい。

●くるみは、コケシちゃんが来てからだんだん自分の意見などを言えるようになったから、それだけコケシちゃん存在が大きいんだなと思いました。

●自分たちにとってふつうのことで、外国に住んでいる人にとっては少し不思議なことはいろいろあるんだなと思った。

●だんだんクラス全体がまとまっていく感じがした。

『星のこども』 川島えつこ／著（ポプラ社）

●柏先生にすすめられた星のこどもは、ゆいがひくとみんながすいこまれる曲だと思います。ゆいはこの曲をひくたびに成長しているように思えました。

●ちびちびちゃんがうまれてからの話があれば、と思いました。

●失敗しても自分なりの演奏ができれば良いなと勉強になりました。

●表紙の波がピアノで表わした曲の海だったのだと気が付いた。とてもきれいな絵です。

『かぐや姫のおとうと』 広瀬寿子／著（国土社）

●この本はきっと、誰かを思う心を大事にしてほしいということが書かれている一さつだと思います。

●前世の記おくを持つ人が何人も出てきて不思議だなと思った。わたしも、だれかの生まれ変わりだったらどんなふうだろう。

●いささ丸の話が最初はどういう意味なんだろうと思ったけど、だんだん読んでいるうちに、意味が分かってどんどん面白くなっていった。

●「かぐや姫」のうらにいろいろな話があるのがおもしろい。